

2021年 昨年度ふじのめ学級実習に参加した特支の先輩たちから後輩に伝えたいこと

1. 実習に求められる心構え

- ・先生方や子ども達に対しての礼儀やマナーを守ろう。子ども達は実習生同士の会話や態度もよく見て、言葉遣いも真似します。見られている、という意識を持つ。
- ・短い実習期間なので様子を見ていないで初日から、児童生徒と関わる
- ・児童とのコミュニケーションをとる上では実習生自身の表情も大事です。緊張のあまり無表情担っていると、怖いと思われてしまいます。笑顔でいる方が、児童の反応も良い。
- ・附属の先生は授業と休み時間のメリハリがしっかり分けられていました。休み時間に関わったことが、授業づくりに直結します。普段から児童生徒の発言や行動を見たり、関わりながら実態をつかんだことが、授業の後半に飽きずに授業参加できる工夫に繋がった。
- ・生徒との距離感に配慮する。友達同士のように近すぎても言葉遣いが不適切になるし、遠すぎても交流できない。生徒と教師という立場を意識しながら、接する。
- ・趣味や特技は子どもとの会話も弾む。持ち物のキャラクターなど、会話のきっかけは身近なところにある。
- ・実習中に自分から声をかけてこない児童生徒と話したり遊んだりすることが少なく、偏りが出てしまうので、自分から積極的に声をかけると良い。まずは笑顔で挨拶してみよう。
- ・大学の講義の中でも指導案の書き方や授業の話は出てくるので、しっかり学んでおく。

2. 実習を乗り切るための助言

- ・自分だけでは気づかない事も多いので、実習生同士で話し合う事も重要でした
- ・しんどい時は一人で溜め込まず、適度に気分転換！
- ・授業のシミュレーションをしておかないと、実際の場面で慌てることになる。同じ学級の実習生と協力して、「あの子なら、こんな反応をする」「こんな発言をしそう」と予想しあって、手立てを考えた。
- ・授業には必ず予想外のことが起きるので、指導案通りにいかななくても落ち込まないこと
- ・ふじのめ学級の児童生徒は元気いっぱいなので、休み時間にも「外へ行こう」「一緒に遊ぼう」と体を動かすことが多い。実習前に体力をつけておこう。
- ・周りの人からのアドバイスは、しっかりメモを取っておく。すぐに実行できなくても、後から納得する事もあった。
- ・自分の授業について子どもから意見をもらって修正したこともあった。予定通り進まなくても焦らないこと、授業のねらいに少しでも近づいているならそれで良いと考えよう。

3. 実習を通して他の実習生から学んだこと

- ・子どもにとっては、1日中どの活動も成長するきっかけになる可能性がある。休み時間、授業中、運動会練習、子どもにとって無駄な時間はないと思う。

- ・ 授業のなかで子どもが「わからない」と素直に言えるのは、クラスの雰囲気、信頼関係ができて
いるからです。担任教師の学級経営の仕方が大切になってくる。
- ・ 他の人の発表のなかで、「一步引いて見る」という話がとても勉強になった。教師が一方向的に教
えてしまうと、子どもの学ぶ機会を奪ってしまうため、子ども自身で考えさせることが大切だ
と思った。子ども同士の問題も、子どもたちだけで話し合う機会を設けたり、授業づくりでも問題
解決に焦点をあてるのではなく、子どもたちは考えることから、どう学びを深めるかというこ
とに意識を向けていきたい。
- ・ 1年生の実習報告を聞いて、やはり発達段階の違いを感じました。1年生には適した指導方法
でも6年生には適さない場合もあるのだと学びました。どこの学級に配属になった人も子どものた
めにどうするべきか、試行錯誤しており、その過程を聞く事はとても勉強になりました。実習を
通して至った考え方や応えは様々で、正解はないのだということも感じたが、沢山の人の思いを
聞く事で選択肢を増やしておく事が大切だと考えました。
- ・ 私は実習を通して「一人ひとりを見る事が大事だ」と書いたが、その方法にもいろいろあること
を知った。その子を「場所、時間を変えて違う角度から見ること」「教師との関わりを見る事」「児
童同士の関わりから見る事」など、他の人が経験したことから学ぶ事ができた。
- ・ 何か失敗した時には、子どもとの関わりでうまくいかなかったことを他の実習生と話して振り返
った。実習校の先生にアドバイスをもらい、改善することを次の日に実行したら、初めて気づいた
こともあった。まず助言をもらったなら実行に移してみる事が大事だと思う。
- ・ 他の学年の実習生の報告を聞いて、それぞれの学年の発達段階の違いと、その対応の仕方の違い
を知る事が出来ました。すべての学年において、向上心が強く、雰囲気づくりも、学校にとって
は必要な要素であると感じました。
- ・ 通常の学級はクラス人数が多いため、自然とクラス全体の印象で判断してしまうことがある。確
かに、一人ひとりを見て行くと、全員がその印象に当てはまるわけではない。クラスの部分と、
全体のバランスを見る事は、クラス運営でも、一人ひとりの子どもの理解においても必要な要素
だと思う。